

でつけ合わせてから、左右に離し内側に夫々円を描いて最後に両手を手首で合わせる。即ち円形を造ったわけで、境界で開んだ国の意味。

首切り 誰れもがするように、手で自分の首を切る身振り。

組合 「協会」(連盟)と同じ手まね。

工夫 考える―骨折―考える。

蜘蛛 五指の指頭を上にし、掌を前に向けた両手を互の親指でつなぎ、他の四指を曲げ伸ばししながら、上へ移動させて行く。

四指は蜘蛛の脚となぞらえて、糸をつたせて上へ上る蜘蛛の横写運動。

雲、曇り 顔の前上で、五指の指頭を上にし、掌を前向け(稍々斜め上向け)て五指を彎曲した両手で、もくもくと立ちこめた雲を描くつもりでかきまわす。

倉家―いろいろ―入れる―扉を閉じ

る。家を表わした両手の左手をそのままの形に残して置いて、右手で「いろいろ」を表わし、左手の下に物を入れる真似をして、扉を閉じる手直似(金庫と同じ要領)

暗い 「夜」と同じ手まね。

暮す(暮し)の「一昼夜」の手まねを三度繰り返えす。

○暮して(生きて)行くは、生きる―暮す、較らべる 両手の指頭を上にした人差指を胸の前で、対立させ、交互に上下させる。

「競う」の同じ要領。

栗 五指を曲げて、その指頭で顎の下を突く。かたい男の顎の無精ひげから、栗のいががした感触を連想したもの。

繰上げる 「延期」と同じ。

来る 指頭を上にした人差指を前方から、胸もとへ引寄せる。

苦るしい(苦しむ) 掌を内側にして五指を

曲げた両手を胸にあて、掻きむしる身振り。
車（車輪）掌を下に向けた両手の夫々の親指と人差指で輪をつくり、前へ廻転させるようにする。

黒 掌で頭の上から横へ撫で降す、髪の色を表わしたもの。

玄人 「腕利き」と同じ手まね。

軍艦 (イ) 大砲—汽船。(ロ) 戦争—汽船。

軍人 銃を持った手つきをした両手を上下に間隔を置いて、胸の右側につける。「捧げ銃」の第一節の動作。

ケ

毛 親指だけを折って、他の四指の指頭を上にした右手を、左腕の上に載せて、手甲辺りまで移動させる。腕に伸びた毛。

警戒 人差指と中指を曲げて、その指頭を

眼の前にもって行き、僅かに左右に動かせる、「監督」の手まねと同じ要領。眼を左右に配る表情。

計画 「かたづけける」の手まねと同じ。

警官 帽章（徽章）——男性。警官の制帽の大きい徽章が印象的なことから、象徴されたもの。

景気 (イ) 景気がよい。商い——よい。(ロ) 不景気。商い——悪い。

経験 掌を内側に向けて五指の指頭を左にした右手。掌を内側に向け五指の指頭を右にした左手。先ず右手掌を左手の手甲にびったりとつけ、次に左手掌を右手の手甲にびったりとつけてはまた右手掌を左手の手甲にと二三度繰返す。つまり両手を横に重ね合わせる訳である。事を重なり重ねた即ち経験となる訳である。

稽古 「演習」と同じ手まね